

不活化ポリオ（単独）ワクチン（対象年齢：生後2月から生後90月に至るまで）

※過去の接種歴により接種するワクチンが変わります。

平成24年11月に、不活化ポリオワクチンを含む四種混合（DPT-IPV）ワクチンが開始されたため、不活化ポリオ単独ワクチンの接種は、対象者が下記の方に限られます。

病気の説明

ポリオ[急性灰白髄炎]

ヒトの便中に排泄されたウイルスが他のヒトの口から入り、咽頭または腸から吸収されて感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。腸管に入ったポリオウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在、残念ながら特效薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。日本では自然感染による患者発生はありませんが、一部の国では今でもポリオの流行があり、いつ国内に入ってくるかわからないのでワクチン接種は欠かせません。

接種時期と回数

不活化ポリオ（単独）ワクチンは、初回接種3回、追加接種1回、合計4回の接種が必要です。

【初回接種（3回）】標準的には生後2月から12月に3回

（20日以上、標準的には20日からから56日までの間隔をおく）

【追加接種（1回）】初回接種終了後、おおむね1年後（推奨期間は初回終了後12月に達したときから18月に達するまで）に1回

■過去の接種歴により接種するワクチンが変わります。下記の表を参考にしてください。

	過去の接種歴			
	生ポリオワクチン	不活化ポリオワクチン	三種混合	
①	2回	0回	4回	不活化（単独）ポリオも三種混合も不要（接種完了）
②	0回	0回	0回	四種混合を4回
③	0回	0回	4回	不活化（単独）ポリオを4回
④	0回	0回	1回	不活化（単独）ポリオを1回、四種混合を3回
⑤	1回	0回	1回	4種混合を3回
⑥	0回	3回	3回	4種混合を1回
⑦	2回	0回	1～3回	4種混合で3種混合の残り回数を受ける
⑧	0回	4回	0回	4種混合を4回

※4回を超える不活化ポリオワクチン（IPV）接種後の有効性及び安全性は確認されています。

副反応と注意点

ワクチン接種後の副反応は接種部位の疼痛、発赤、腫脹などで、通常1～5日程度で消失します。局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等の異常な症状を呈した場合には、速やかに医師の診察を受けましょう。

接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしましょう。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。